

見てたのしい 仁井田MAP 歴史編



地区の歴史と由来

現在の仁井田地区は、江戸時代の仁井田村・滑川村・館ヶ岡村にあたります。明治22年(1889年)に仁井田村、滑川村、館ヶ岡村が合併し新たな仁井田村ができ、昭和30年に須賀川市と合併し現在に至ります。

地名	由来
仁井田	「仁井田」という地名は江戸時代から。それ以前、戦国時代は「新田(にいだ)」の名前が見られ、地区内には明石田、猿池、関下など、水田開発に関係すると思われる地名が残っています。明治維新の頃、仁井田村の石高は約3000石で、須賀川の中で一番の石高だったことから、穀倉地帯として豊かな地域だったと推測されます。
滑川	地名の由来は地区を流れる「滑川」で、川底が岩盤で床滑(とこなめ)の状態になっていることから「滑川」という名がついたとされています。「水の道(滑川)」とともに、「陸の道(奥州街道)」を中心に発達してきた地域の歴史を示しているのではと考えられます。
館ヶ岡	館ヶ岡字館山にあった(館山館)が由来とされています。館山館が詰めの城、本郷にあった本郷館が普段の居館で、当時から本郷を中心に集落が発展していたと考えられます。

現在の仁井田地区は仁井田、関下、大谷地、滑川、十貫内、館ヶ岡、向陽町、宮の杜、季の郷の9区からなります。各区の詳しい歴史や由来、遺跡などは、すまいる会会場内に掲示しているマップや、仁井田コミュニティセンターのホームページをご覧ください。

<お問い合わせ>

仁井田地域づくり実行委員会事務局 須賀川市仁井田コミュニティセンター 須賀川市仁井田字猿池11 TEL.0248-88-1005



ホームページ

仁井田出身活躍人



しろくま
白熊関
(二所ノ関部屋)

仁井田小卒業後に新潟県に単身相撲留学し、日本体育大学を経て、「二所ノ関部屋」に入門。令和6年7月場所で十両優勝し、同年9月場所で新入幕。持ち味の力強い相撲だけでなく、優しき溢れる笑顔で人気を集めており、今後の活躍が期待されています。



あべ ひろき
阿部 弘輝選手
(住友電工陸上競技部)

仁井田中卒業後、学法石川高校を経て明治大学へ進学。令和2年の「箱根駅伝」では7区区間新記録を樹立し、ユニバーシアード男子10,000mでは銀メダルを獲得。2025年元旦に開催されるニューイヤー駅伝の出場も決まり、さらなる活躍が期待されています。

仁井田出身偉人



ねもと ひろし
根本 博
(根本中將)

陸軍士官学校を卒業後、昭和19年第3軍司令官陸軍中將へ。戦後武装解除を受け中国に居留し、昭和21年8月復員。昭和24年頃から旧軍人グループの音信をたどって蒋介石援軍を組織し、蔣總統の対中供作戦に協力したといわれています。ヒューマンズに富んだユニークな将軍として、将兵や一般民間人からも敬愛されました。(須賀川市史より)

令和6年度 第22回仁井田地域づくり事業 無声映画上映会 すまいる座

※みんなで“感笑”鑑賞※

ごあいさつ

令和6年度第22回仁井田地域づくり事業 無声映画上映会「すまいる座」にご来場いただき、誠にありがとうございます。地区内外から多くの方々にお越しいただき開催できますことは、主催者としてとても嬉しく思います。

本事業は、「仁井田から発信できる事業を地区住民とともに」を合言葉に、平成14年度から一人芝居や寄席、コンサートなどを開催し、今回で第22回目を迎えることができました。

この間、新型コロナウイルス感染症の影響により開催を断念する年もありましたが、楽しみにしていた方々に本事業でしか鑑賞できないものを提供したいとの思いで、これまで継続することができました。また、第20回記念を契機に須賀川市文化センターを会場に開催しておりますが、多くの方々に本事業や仁井田地域のことを知っていただくことができたと考えております。

今年度は、昨年度ご好評いただいた無声映画上映会を引き続き開催することとなりました。懐かしく、新しく、温かく、心躍る文化を存分にお楽しみください。

また、ご来場いただいた皆様には、昨年度に引き続き手作りの仁井田マップをお配りしております。今回は歴史編となっており、魅力ある仁井田地域の歴史や文化を発見していただけたと思いますので、ぜひご覧ください。

令和6年12月15日

仁井田地域づくり実行委員会委員長 森合重義
須賀川市仁井田コミュニティセンター所長 深谷俊彦

実行委員

森合重義、谷田部文和、安藤晃、武田貴志、根本邦大、根本佳子、平口岳司、丸本孝太郎、矢内潤、渡辺藏重、渡辺由美、樽川美恵、菊地敏、増子理江子

協賛団体

仁井田地区明るいまちづくりの会、仁井田地区区長会、仁井田地区体育振興会、岩瀬地方公民館連絡協議会、夢みなみ農業協同組合須賀川支店

協力団体

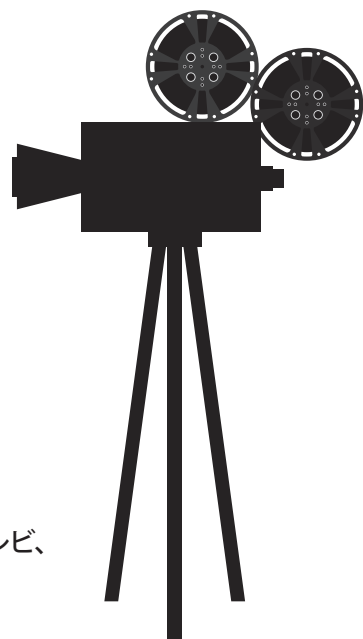
仁井田中学校、JA夢みなみすかがわ岩瀬女性部仁井田総支部

後援団体

福島民報社、福島民友新聞社、マメタイムス社、阿武隈時報社、福島テレビ、福島中央テレビ、福島放送、テレビユー福島、ラジオ福島、ふくしまFM、ウルトラFM

お客様へのお願い

- 公演中の写真・ビデオ撮影及び録音は禁止です。
- 会場内及び敷地内は全面禁煙となっています。
- 文化センター内では、飲食はご遠慮ください（受付ロビーを除く）。
- 公演中は、携帯電話の電源を必ずお切りください。



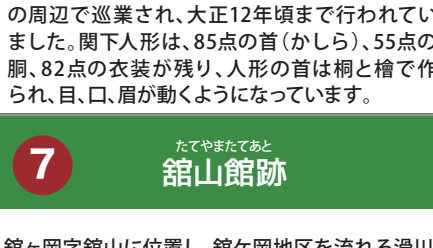
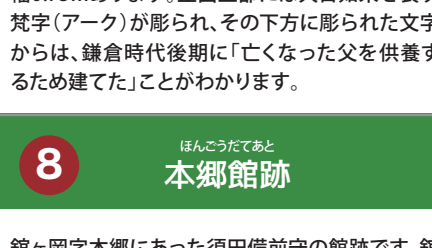
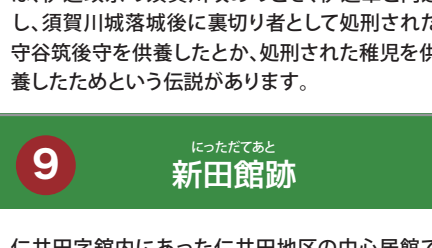
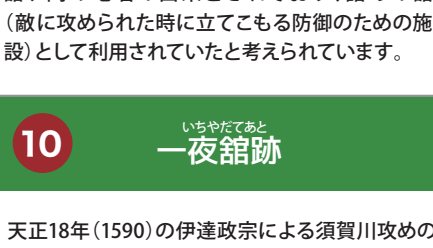
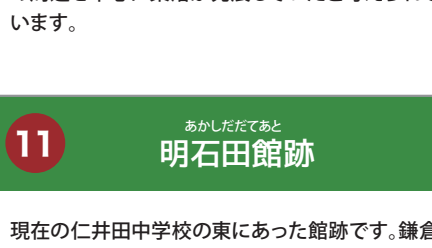
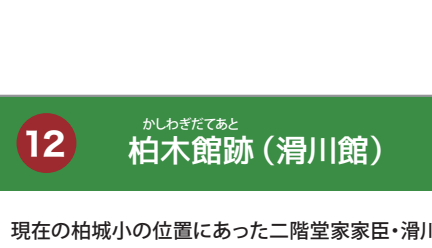
仁井田MAP

主な史跡と館跡



歴史ある仁井田へようこそ！仁井田の魅力をぎゅっとMAPに詰め込みました。

仁井田にはたくさんの史跡や館跡（土地を治める領主や武士が住む屋敷や、堀などの城郭の跡）があります。ぜひ、MAPを片手に仁井田の歴史にふれながら史跡や館跡巡りをお楽しみください！

1 かなりよこあなごふんぐん 神成横穴古墳群 (市指定史跡)  館ヶ岡から郡山市に通じる郡山矢吹線の市境にある丘陵の南斜面に横穴を掘って造られた古墳時代のお墓です。南崖面約300mに及ぶ広さを持つと考えられ、当時の家父長家族を背景とした地域的・政治的集団の統率者・族長クラスの共同墓地と考えられています。	2 たてがおかまがいつ 館ヶ岡磨崖仏 (市指定史跡)  安山岩の崖面に彫られた阿弥陀如来座像で、和田大仏と並ぶ当地方の代表的な磨崖仏です。肩から膝へ流れるおらかな衣の線は、鎌倉時代の仏像の特徴をよくあらわしています。昔からこの大仏を信仰すると、母乳の出が良くなるといういい伝えがあることから「子育て大仏」と呼ばれ、地元の人々の信仰が厚かったとされています。	3 にいたうえおどり 仁井田田植え踊り (市指定無形民俗文化財)  仁井田地区に伝わる伝統芸能で、江戸時代の元禄年間(1688～1704年)から始まったとされています。田植え踊りは、イネの順調な成長を願い豊作を祈る踊りで、当時の人々の生活と深い関わりがあります。平成4年に須賀川市無形民俗文化財第1号に指定され、仁井田田植え踊り保存会によって現在も継承されています。
4 せきしたにんぎよう 関下人形 (県指定重要有形民俗文化財)  江戸時代に関下村で結成された「結城座」という一座が、人形芝居に使用していた人形や衣装と舞台道具など。お祭りや農業の開散期に関下とその周辺で巡業され、大正12年頃まで行われていました。関下人形は、85点の首(かしら)、55点の胴、82点の衣装が残り、人形の首は桐と檜で作られ、目、口、眉が動くようになっています。	5 せきしたごりんざんくようとうしょうかくのひ 関下五輪山供養塔正覚の碑 (市指定有形文化財)  一般に板碑(板石塔婆)と呼ばれるもので、市内に数多くある板碑の中でも特に大きく、高さ2.1m、幅0.75mあります。正面上部には大日如来を表す梵字(アーク)が彫られ、その下方に彫られた文字からは、鎌倉時代後期に「亡くなった父を供養するため建てた」とことがわかります。	6 ちくこづかくようとうくん 筑後塚供養塔群 (市指定有形文化財)  阿弥陀三尊来迎浮彫供養塔のほか三基の板碑からなる供養塔群です。筑後という名前の由来には、伊達政宗の須賀川攻めのとき、伊達軍と内通し、須賀川城落城後に裏切り者として処刑された守谷筑後守を供養したとか、処刑された稚児を供養したためという伝説があります。
7 たてやまたであと 館山館跡  館ヶ岡字館山に位置し、館ヶ岡地区を流れる滑川の南岸、向山丘陵の西崖面にあった、須賀川城の主・二階堂氏の家臣だった須田備前守の館跡です。館ヶ岡の地名の由来とされており、詰めの館(敵に攻められた時に立てこもる防御のための施設)として利用されていたと考えられています。	8 ほんこうたてであと 本郷館跡  館ヶ岡字本郷にあった須田備前守の館跡です。館山館が「詰めの城」であったのに対し、本郷館は「普段の居館(本拠地)」だったといわれており、この周辺を中心に集落が発展していたと考えられています。	9 につただてであと 新田館跡  仁井田字館内にあった仁井田地区の中心居館です。二階堂氏の家臣・浜尾三河守などが館主だったといわれ、当時の村名にもなっていました。
10 いちやだてであと 一夜館跡  天正18年(1590)の伊達政宗による須賀川攻めの際、伊達勢が一夜のうちに土塁を築き二階堂氏の家臣・明石田氏の館(明石田館)を攻撃したという言い伝えがある館跡です。現在は一夜館公園として地域の憩いの場となっています。	11 あかしだてであと 明石田館跡  現在の仁井田中学校の東にあった館跡です。鎌倉時代(文治5年頃)から戦国時代(天正18年)の400年間にわたり、明石田氏の居館で当時の村名でもありました。	12 かしわざだてであと 柏木館跡(滑川館)  現在の柏城小の位置にあった二階堂家家臣・滑川藤十郎の館で、二階堂氏が三春城の城主・田村氏と対峙した北辺の要地でした。阿武隈川の支流・滑川を利用した城館で、学校の西が本丸でした。柏木館(柏木城)の「木」を取って「柏城」にしたという説があります。